

出世するより、成功する方が、偉い。

企業経営漫談士 岡野実空

バブル崩壊後に一世を風靡し、世の中に「ガテン系」という強烈な言葉を残した、リクルート発行の求人情報誌『ガテン』。これは当時、その対象者以外からも多くの共感を生んだ、その広告コピーです。(1992、前田知巳) 今回のコラムは、このコピーをもとに、社会人がもつべき「職業観」や「人生観」について考えます。

視点1: 背景と真意

土木・建築・ドライバー・調理師・メカニック等、いわゆるブルーカラーを対象にした求人情報誌『ガテン』は、1991年9月の創刊。それは「手に職をもつ」業種一覧表として、バブル崩壊後の雇用の受け皿となりました。またその後も、「合点のいく」生き方への応援という機能を果たし続け、2009年休刊となりましたが、いまその役割は、しっかりとインターネットに引き継がれています。

さて今回のコピーは、バブル崩壊で露呈した、「ホワイトカラー」という虚像とは対照的に、実体の伴った技能で顧客に貢献する、「ブルーカラー」の心意気を示したものだ。それは私たちに「職人」への敬意を思い出させ、多くの人の「合点」を得ました。しかし多くの自国民が「職業観」を変えて、その人手不足を解消するまでには至らず、いまだ海外からの助っ人に頼らざるをえないのが実情です。

視点2: 教訓と学習

「出世」の原語は、仏教語の「出世間」。世間「を」離れ「出家」する意に、世「に」出て立派な地位や身分となること加わり、いまは後者の「立身」の意味で使われることが大半になりました。また「成功」も、元来の「目的を達成すること」に加え、「地位や富を得る」意味で多用されています。

さてこのコピーが訴求しているのは、その「目的」と「過程」や「結果」の「取り違い」への警告。すなわち社会に出て、自分に適した職業に就き、その精進をつうじて顧客に貢献することが「目的」であり、それを果たし、社会から「成功」といえる高い評価を得るのは、その「結果」であるという因果関係です。その取り違いの典型が、さまざまな分野における「立身出世」の自己目的化。トップに立つことそのものが目的となり、

©NPO マネジメント共有ネットワーク

◆教訓: 「出世」は過程であって、目的ではない。
「成功」は結果であって、目的ではない。

◆参照コラム: 『三々な経営』

- 0-11 一流経営人の条件①平尾氏の遺言・MVP
- 0-16 ダメ経営人の特徴③現役/退役規準

それをつうじて何を実現するかという組織的なビジョンを持たない人間のことで。またその輩が秘める目標は、得てして「名誉」や「カネ」の類。悪いことにそれらには際限がなく、延々とトップに居座り、晩節を汚すばかりか、周囲にいる多くの人々を巻き込んで、さまざまな悲劇をもたらします。

古今東西、「失敗は成功のもと」。しかし一旦、ことがなったら、「成功は失敗のもと」。(筒井康隆著、『現代語裏辞典』より)ガッテン!

視点3: 異論その他

「上級国民」なる流行語が生まれるほど、「格差社会」となった日本。この言葉からは、階層の固定化による社会のダイナミズムの喪失を感じます。

『成功の反対は失敗でなく、なにもしないこと』という格言があります。ひと度、権威を獲得すると徒党を組んで、何ら挑戦することなく、上級の座に鎮座する者のなんと多いことか。

90歳のいまわの際に『せめて、あと5年あれば本当の画工になれるものを』と語ったのは、彼の葛飾北斎。春朗から卅まで、生涯に30回の改号を繰り返し、時々のステータスを捨て続けた北斎に、「成功者」の真の意味を教えられます。評価すべき点は、その地位や名誉でなく、新たな目標に挑戦し続ける姿勢にこそあり!。(一力 廉)

いま政治、経済、文化等、社会のあらゆる分野を見渡しつつ思い出す、勝海舟の言葉。

「生業に貴賤はない。生き方に貴賤はある。」
ガッテン! ガッテン!!

2020年11月23日 実空